

氏名	藤澤 理恵
所属	社会科学研究科 経営学専攻
学位の種類	博士（経営学）
学位記番号	博 第40号
学位授与の日付	2021年3月25日
課程・論文の別	学位規則第4条第 項該当
学位論文題名	プロボノにおける越境が可視化する協同志向のジョブ・クラフティング：関係的な主体性への拡張に向けて
論文審査委員	主査 教授 高尾 義明 委員 教授 石山 恒貴（法政大学大学院） 委員 准教授 高橋 勅徳

### 【論文の内容の要旨】

ジョブ・クラフティングは、当初、ジョブ・デザインの変更において従業員自身もつ行動的・認知的主体性を認め、仕事の意味やワーク・アイデンティティがより意味深いものとして経験されていくプロセスを捉える概念として提案された。仕事における経験はタスクや関係性の環境に埋め込まれており、働く個人は環境に促されて仕事そのものや仕事における自己の意味を経験する。しかしその一方で個人は、自身が埋め込まれた環境を変化させそれによって、自身の経験を変えるプロセスに自ら参加することもできる。さらには、自ら環境に働きかけたとしてもそれが思わぬ変化を自身に招くことさえあり、そうした環境と自己の相互作用に開かれた再帰的な変化プロセスを想定していた。

しかし、近年にいたるジョブ・クラフティング研究は必ずしもそのような世界観の全体像を継承しておらず、個人が欲求を満たしたり不満を解消したりするために外部環境に働きかけるプロアクティブなプロセスのみを切り取る傾向がみられる。不確実性を増す今日の環境下では、仕事における経験を意味深く変化させていくプロセスへの理解が重要であり、ジョブ・クラフティング研究を原点回帰させることが重要である。

本稿では、ジョブ・クラフティングプロセスを仕事外領域へと拡張し、その日常性や再帰性によって見過ごされてきたと考えられる、仕事における意味の経験が変化するプロセスの可視化を試みた。また、協働文脈に着目し、意味深い仕事の経験に他者とのどのような関係性が関わっているのか、既存の協働文脈を変革していくようなジョブ・クラフティングとはどのようなもので、いかにして可能になるのかを、量的研究と質的研究で検討した。

量的研究の結果、異質な協働文脈にある活動に参加する越境経験が、組織アイデンティティとワーク・アイデンティティの内省を促し、その結果としてジョブ・クラフティングが行わ

れることが実証された。その具体的なプロセスを検証した質的研究では、越境経験のあとに、協同志向ジョブ・クラフティングという、仕事の境界を自他を隔てるものからより協同的なものへと変化させる、これまで論じられてこなかったジョブ・クラフティング形態が見出された。

協同志向のジョブ・クラフティングは、自己と他者の間の境界をむしろ曖昧にし、自他の間にある関係性をより良いものへと発達させようとする「関係的な主体性」に促されていた。これまでのジョブ・クラフティング研究では、自己と他者を隔てる境界を強化し自律性や有能さを高めて個を強調する志向をもつ主体性を前提としていたために、協同志向のジョブ・クラフティングが見落とされてきたと考えられる。本稿を通じて、このような主体性概念の拡張が、ジョブ・クラフティング研究を発展させる可能性が見いだされた。